

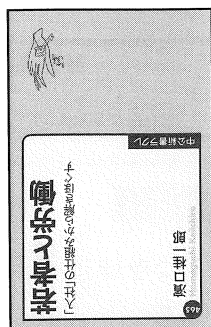
欧米は、仕事に対して人をはりつける「ジョブ型」であるのに対して、日本は、人に仕事をはりつける「メンバーシップ型」の労働社会であるという、その日本型雇用システムが、非正規雇用、フランク企業など、若者を取りまく労働問題の根底にあるとする。本書では、雇用の入口に焦点を絞って、日本型雇用システムと教育システムについて分析し、若者の労働問題に対する政策の推移を概観し、今後に向けた処方箋を提示している。若者の労働問題について整理することが出来る一冊。

「20～59歳で未婚の人のうち、仕事をしていないだけでなく、普段ずっと一人であるか、そうでなければ家族と一緒にいる人がいない人たち」を「孤立無業者(SNEP)」と定義づけ、その数は年々増加し、162万人に達すると算出している。一人型SNEPの多くは、貯蓄を切り崩して生活していたり、すでに、生活保護を受けていたりしており、また、家族型SNEPは、家族の収入に依存して生活しているという実態を、明らかにしている。生活力がなく、老後、将来が危惧されるSNEPは個人の問題であるだけでなく、生活保護などの社会的コストの増加、労働力の損失など日本経済に与える影響も大きく、新たな課題を提起している。

今日の日本の競争力の源泉である「強い職場」が如何にして形成されていったか。戦後のトヨタ争議を通じて、労使対立から、職場の人たちが仕事に対して工夫し、経営側と共働する労使共働になるに至ったかを追求している。また、この労使共働は日本特有のものであるという通説に対し、タイやアメリカの現地工場を例に、海外でも通用することを示した。

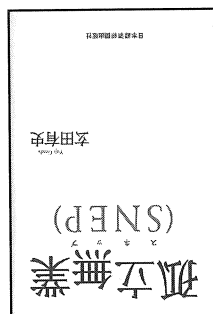
日本の製造業の強みである「発言する職場」の起源を戦前にかのぼった、前著、「高品質日本の起源」の姉妹編。

濱口桂一郎 著 中央公論新社 刊
880円(税別)



「入社」の仕組みから解きほぐす
若者と労働

玄田有史 著
日本経済新聞出版社 刊
1,500円(税別)



孤立無業(SNEP)

小池和男 著
日本経済新聞出版社 刊
3,400円(税別)



強い現場の誕生

BOOK

